



沖縄県立看護大学大学院博士後期課程
島嶼保健看護 野村幸子

那覇生まれの那覇育ち、その後大阪・神戸で暮らし、広島三原で初めて瀬戸内海の小島出身の学生に出会いました。それまでおよそ「島ちゃび」とは縁のない暮らしをしていましたが、沖縄の離島の保健・医療に関心を持つきっかけとなりました。久米島にある重要文化建造物の上江洲家では家の中に炉があることを発見、暑い沖縄で??と思いながら、「地域文化看護論」で調べた〇年前の褥婦のケアの民間伝承が現実として納得できました。島には昔ながらの行事や文化が住民の生活と共に生きています。健康との関連を知り、昔の人々の生活の知恵を大切に看護にどう活用できるかを探索することは楽しいことです。



沖縄県立看護大学大学院博士後期課程
島嶼保健看護 仲宗根洋子

実際宮古島出身者の私ですが、高校卒業以来ふるさとに戻ることもなく、月日が立ってしまいました。平成15年から18年にかけて久米島に研究で入り、島民との様々な交流が「シマンチュ」魂をよみがえらせ、島および島の性質を考え、環海性と地域ぐるみの概念へ関心が広がって、ついには島しょ看護学へのチャレンジに至りました。また、そのことは、私が島の出身であることによる創造的に取り組むことは何でも達成できるという楽観的な見通しによるものだと思っています。振り返るとこれは私の看護実践に大いに影響をも及ぼしている。